

オスプレイ運用で防衛省が情報提供拒否 来年度予算で定期整備に68億円

聞き取りを行うさいとう和子元衆院議員（左から2人目、右へ丸山議員）と高橋裕さん。
2月18日・衆議院議員会館



日本共産党が2月18日、オスプレイの運用などについて防衛省から聞き取りをしました。

陸上自衛隊のオスプレイで防衛省は、新たに

アメリカから輸送される2機について、「2月下旬までに岩国に到着し、その後、木更津に移動する予定」と回答。そのうちの1機が3月4日に木更津に配備されました。オスプレイの今後の運用計画については、「飛行が妨害される恐れがあるので、事前、事後とも情報は提供しない」と繰り返し、住民の要求に背を向けました。

また千葉県内の米軍と自衛隊に関する2022年度防衛省予算案では、木更津駐屯地関係が約68億円と突出。これは米軍と自衛隊のオスプレイの定期整備のために、格納庫を新たに2棟建設するための予算です。今回を含めてこれまで134億円を計上していますが、さらに増える予定です。

聞き取りの中で参加者から、「先日、いままで体験したことのない大きな音と揺れで不安を感じた。住宅密集地での飛行は止めてほしい」との要望が出されました。

学習会で報告する児玉三智子さん（左）と高橋裕さん。

2月16日・船橋市内



爆した広島で

「核兵器禁止条約」が被爆の実相を知り、核兵器禁止条約への

被害者団体協議会の児玉三智子事務局次

長が7歳で被爆した広島で

会を行いました。

二和診療所の高橋裕医師は、被爆者健診を

加を実現させるための力に

「核兵器が地球上にあること自体が人道的に許されない。核兵器も戦争もない世界を実現するために、1人ひとりが一歩を踏み出そう」と訴えました。

船橋原水協が被爆の実相と核兵器禁止条約で学習会

2月16日、原水爆禁止船橋市協議会（船橋原水協）が被爆の実相を知り、核兵器禁止条約への

志位和夫委員長 さいとう和子元衆院議員 激動の「いま」を語る座談会

志位和夫委員長（左）を囲んで懇談する（右へ）さいとう和子元衆院議員、椎葉寿幸地区委員長、丸山慎一前議員。
2月25日・衆議院議員会館



「志位さん！さいかず！激動の『いま』を語る緊急座談会」が2月25日に収録され、YouTubeで配信中です。

ウクライナ侵略の解決の道や新型コロナウイルス対策での岸田政権の問題点、自民党政治が進めてきた弱肉強食の社会の転換、400兆円を超える大企業のため込み金への適正課税、自衛隊にたいする考え方や共産主義など日本共産党への疑問に答える「はてな」リーフについて縦横に語りました。

また、2016年の参議院選挙で初めて野党共闘でたたかい勝利することができた背景に、2013年の東京都議会議員選挙や14年の総選挙での日本共産党の躍進があったと指摘。「野党共闘をさらに前に進めるためにも、今年夏の参院選で躍進を」と呼びかけました。

三番瀬の環境を守るために 自然保護団体と懇談

日本共産党の“さいとう和子”元衆院議員（参院千葉選挙区）が2月15日、三番瀬の保全に取り組んでいる自然保護団体と懇談しました。

千葉県野鳥の会の荒木勉事務局長は、大企業などの資金に頼らず活動してきた歴史を語り、「野鳥の宝庫である三番瀬のラムサール条約登録をめざす」と述べました。三番瀬を守る会の田久保晴孝会長は「産業や開発のために干潟を埋め立てることは『悪』だ。海外にならって日本も湿地保護法をつくるべきだ」と強調しました。千葉県自然保護連合の中山敏則事務局長は「三番瀬の環境を破壊する第二湾岸道路建設を食い止めるには、国会や地方議会の動向が重要だ。さいとうさんには参議院に行ってがんばってほしい」と訴えました。

さいとう元衆院議員は「三番瀬がかかえる問題は自然保護、環境問題、漁業など多面的で、未来に何を残すかが問われている。

自然保護運動の関係者と懇談するさいとう和子元衆院議員（中央）と丸山慎一前議員（その右）。
2月15日・船橋市内



それぞれが三番瀬を守るとの一致点でまとめ、豊かに運動を発展させることが重要だ」と力を込めました。

